



Business Report

第76期 中間報告書

2019年10月1日～2020年3月31日



プロセステクノロジーで未来を拓く

ホソカワミクロン 株式会社



減速する世界経済において、売上・営業利益は苦戦するも、受注は堅調に推移

株主の皆様には、平素より当社グループの事業運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。“グループ一体となったグローバルマーケティング推進によるブランド力と収益力の強化”を基本方針とした、第16次中期3カ年経営計画の最終年度となる今期、厳しさを増す世界経済情勢の中にありながら、粉体技術連峰を形成するグローバルネットワークとその総合力により、さらなる業績の積み上げに取り組んでおります。

Q 2020年度上半期における業績のポイントを教えてください。

A 受注は堅調ながら、案件の長納期化などにより収益には結びつきませんでした。

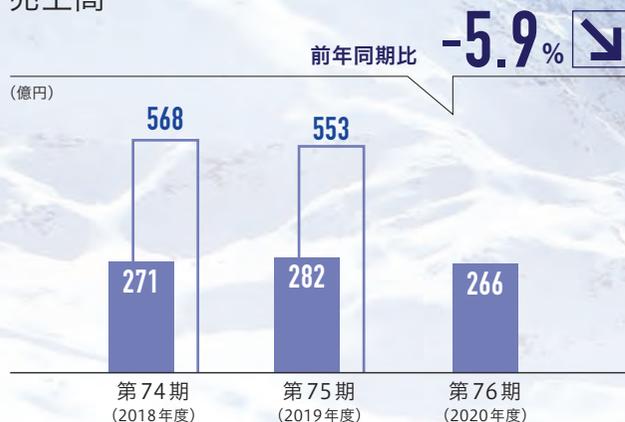
新型コロナウイルス感染症の拡大により世界的に経済が減速する中でありながら、当社受注高は、粉体関連事業、プラスチック薄膜関連事業ともに堅調に推移しました。

売上高は期初の想定より繰越注残案件の出荷が進みましたが、案件の長納期化などにより、対前年同期比で5.9%の減収となり、利益面では、減収および構造改革費用など一時的な経費支出により、対前年度比40%を超える減益となりました。

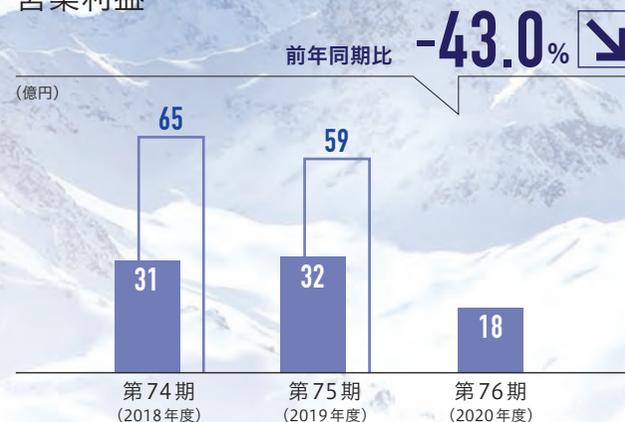
なお、上半期における為替レートの影響は、円高により、売上高で約9.6億円の目減りと試算しております。

財務ハイライト※3

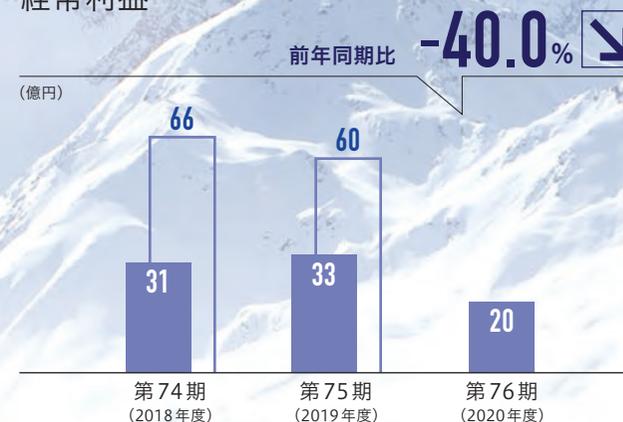
売上高



営業利益



経常利益



■ 中間期 □ 通期

■ 中間期 □ 通期

■ 中間期 □ 通期

※3 当会計年度から「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は741百万円増加、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益がそれぞれ149百万円増加しております。

Q 今後の成長戦略について教えてください。

A 車載、IIoT※1 関連の高機能性素材市場に向けて粉体技術とサービスを提供し続けます。

自動車の電動化(EV)に向けて二次電池材料やモータ用高性能磁石の需要が高まり、自動車産業の技術革新・CASE※2の実現、IIoT技術や生産ラインのロボット化、これら技術の基盤となる高速通信技術・5G関連には多くの高性能電子部品が必要となります。これらのデバイス材料には当社の粉体技術が活かされており、今後も高機能な新素材開発に貢献する粉体技術を提供し続けます。さらには、IIoTやAI技術を活用してお客様の生産プロセスを最適化するHOSOKAWA GEN4®の開発と事業化も推進しています。

また、プラスチック薄膜で、リサイクルが容易な高機能

包装材の製造装置も販売を始めております。

生産基盤構築のための設備投資につきましては、ドイツのグループ会社のロジスティックセンター建設は5月に、大阪工場建設は本年末に竣工を予定し、今後の生産性向上につなげてまいります。

※1 IIoT: Industrial Internet of Things (製造業におけるモノのインターネット)

※2 CASE: Connected, Autonomous, Sharing, Electrification (コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化=自動車産業の技術革新)

利益配分の維持を念頭に置いており、1株当たりの配当金額の増加に努めます。キャッシュフローを重視し、長期的視点に立った利益配分を行ってまいります。当方針に基づき、1株当たりの中間配当金は55円とさせていただきます。

株主の皆様には、引き続きご指導、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

2020年6月

Q 株主還元と配当政策について教えてください。

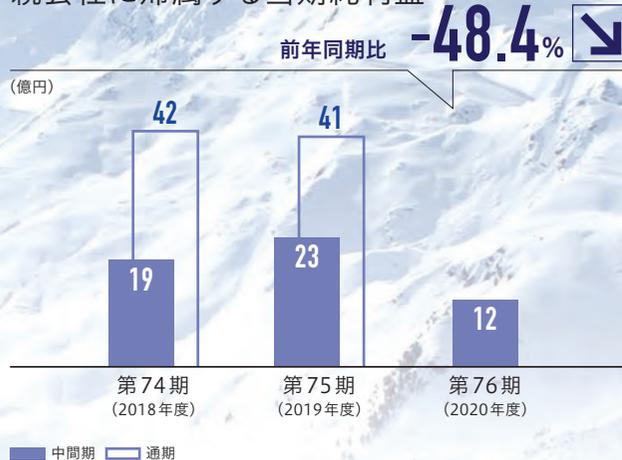
A 経営の効率化を進め、引き続き安定的な利益配分を実施します。

配当金は従来通り、配当性向30%を目標に安定した

代表取締役会長 兼 社長
代表執行役員

細川悦男

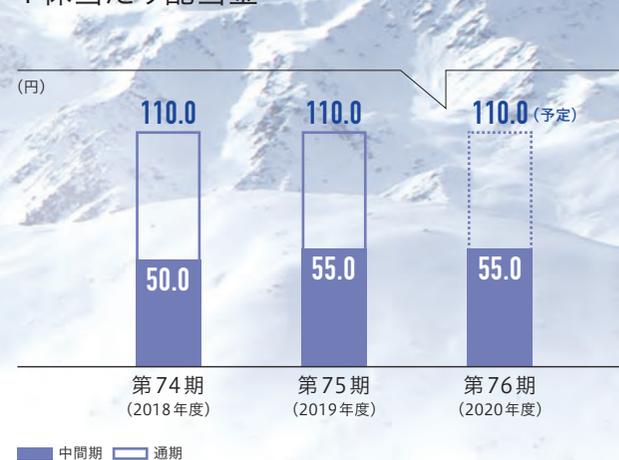
親会社に帰属する当期純利益



総資産・純資産



1株当たり配当金



ホソカワミクロングループのグローバル戦略

粉体技術連峰の形成を目指して
さらなるグローバルネットワーク構築へ

ホソカワミクロン



世界16カ国 20社 31拠点



2020年1月買収

 S.S.T.-Schüttguttechnik Maschinenbau GmbH ^{※1}
system-technik GmbH ^{※1}
マテリアルハンドリング技術のシステム・エンジニアリング、および関連製品の販売



2020年3月営業開始

 Hosokawa Alpine Poland Sp. z o.o.
粉体機器等およびプラスチック薄膜製造装置等の販売



2019年10月営業開始

 Hosokawa Micron (Thailand) Co., Ltd.
粉体機器等の販売



2020年1月買収

 solids components MIGSA S.L. ^{※1}
solids system-technik, S.L. ^{※1}
マテリアルハンドリング技術のシステム・エンジニアリング、および関連製品の販売



2019年7月設立

 SAPS Ltda. ^{※2}
(ブラジル)
受託加工

製品・技術開発の分担

製品・部品の相互供給

最新マーケティング情報の共有

「粉体」「プラスチック薄膜」のコア技術を基盤に、顧客満足の向上に繋がる総合サービス事業を展開



研究開発

より豊かな生活に貢献する『未来技術』の開発



受託加工

最先端の粉体技術で、お客様独自のニーズに応える受託加工を提供



アフターセールス

販売機器の保守・改造・予防診断・リモート診断サービスの実施



マテリアルビジネス

ナノ複合粒子技術により、化粧品や育毛剤の製造販売・各種OEM・受託研究を実施

革新的な粉体技術を提供し続ける世界トップ企業へ

新しい市場創出

最先端の高付加価値製品を提供

顧客ニーズに応える新技術

※1 持株会社 Hosokawa Solids Solutions GmbHの傘下 ※2 DYNAMIC AIR Ltda.との合併

事業別概況

粉体関連事業

売上構成比

75.1%

さまざまな産業分野で用いられる粉状の原料や製品について、砕く、大きさ別に分ける、混ぜる、乾かす等の加工を行う粉体処理装置および日本市場における環境保全や製品捕集に用いる集じん装置、クリーンルームの開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。

また、ナノ複合粒子技術を応用した新素材や化粧品・育毛剤等の開発・製造・販売・受託研究を行うマテリアル事業、材料の加工を請け負う受託加工事業も当事業の一翼を担っています。

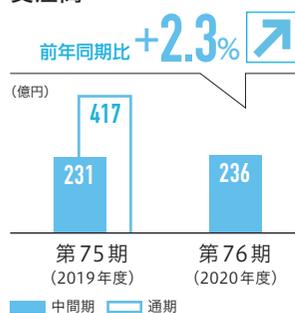
〈事業動向〉

- 日本：二次電池材料、化学、食品向けが牽引
- 欧州：化学、食品向けが堅調
- アメリカ：プラスチックの工場内リサイクル向けが活況

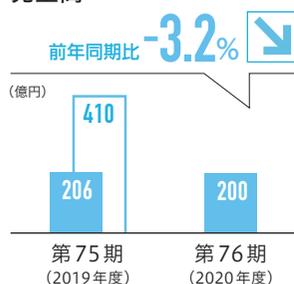
動画を見る



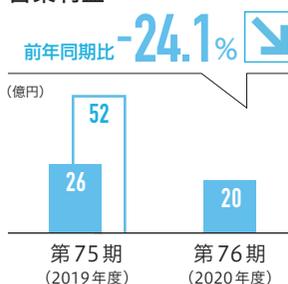
受注高



売上高



営業利益



プラスチック薄膜関連事業

売上構成比

24.9%

高品質のインフレーションフィルム※製造装置の製造・販売・システムエンジニアリングを行う事業です。単層フィルムは、伸縮性が高くシュリンク包装やネット通販用の包装材に適しています。また、多層フィルムは高強度、高耐熱などのバリア機能を必要とする食品包装や電子機器類の保護に用いられています。

※インフレーションフィルム：特性の異なる各種樹脂を円筒状に単層・多層構造に押し出し、その中に空気を吹き込んで膨らませて製造したフィルム

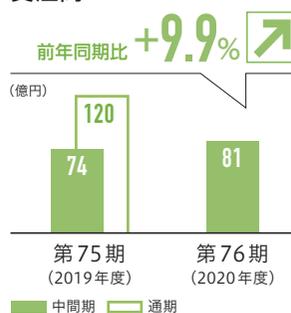
〈事業動向〉

- 欧州：多層の高機能フィルムを中心に受注堅調
- アメリカ：産業用途の単層フィルム用が継続して需要高く好調

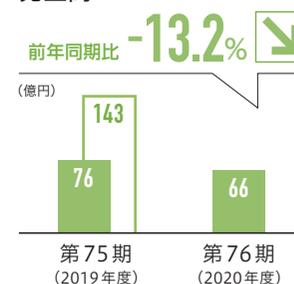
動画を見る



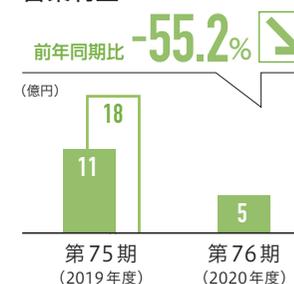
受注高



売上高



営業利益



自動車
タイヤ、モータ、リチウムイオン電池

医薬品
注射剤、OD錠(口腔内崩壊錠)、粉末吸入剤

情報機器
リチウムイオン電池、LED、電子回路

日用品
紙おむつ、化粧品、トナー

食品
でん粉、おから、カカオ

建築材料
充填剤、超微粉セメント、石膏

単層フィルム
通販包装用シュリンクフィルム

多層フィルム
電子機器保護用フィルム、食品包装用高機能フィルム

会社情報

会社概要 2020年3月31日現在

| | |
|------|-----------------------------|
| 商号 | ホソカワミクロン株式会社 |
| 英文商号 | HOSOKAWA MICRON CORPORATION |
| 創業 | 大正5年4月18日(1916年) |
| 設立 | 昭和24年8月13日(1949年) |
| 資本金 | 144億96百万円 |
| 従業員数 | 361名(単体)、1,786名(連結) |

役員 2020年4月1日現在

| | |
|------------|--|
| 代表取締役会長兼社長 | 細川 悦男 |
| 代表取締役副社長 | 細川 晃平 |
| 取締役副社長 | 井上 鉄也 |
| 常務取締役 | 木原 均 |
| 取締役 | 猪ノ木 雅裕 秋山 聡(社外) 高木 克彦(独立社外) 藤岡 龍生(独立社外) |
| 監査役 | 福井 雄二 國分 博史(社外) 荒尾 幸三(社外) |

株主メモ

| | |
|-----------------------|---|
| 事業年度 | 10月1日から翌年9月30日まで |
| 定時株主総会 | 毎年12月 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 中間配当 毎年3月31日 そのほか必要なときは、あらかじめ公告して定めた日 |
| 公告の方法 | 電子公告(当社ホームページに掲載いたします) https://www.hosokawamicron.co.jp/ |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | 0120-782-031 |
| (インターネットホームページURL) | https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |

住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
※配当金は支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと当社定款の定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

「コーポレートガバナンスに関する報告書」を当社ホームページ内の「投資家の皆様へ」のページに掲載しております。

ホソカワミクロン株式会社

<https://www.hosokawamicron.co.jp/>



証券コード：6277

本社：〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地 TEL 072-855-2226 FAX 072-855-5197

トピックス

粉体プロセスを最適化する製造業向けのIoT技術、「HOSOKAWA GEN4®」の研究開発を推進

粉体は取り扱いが難しいため、品質管理に必要な製造データをリアルタイムに収集することが極めて難しい材料です。また、製造プロセスの運転条件設定も難易度が高く、大きな電力消費も課題となっています。

当社ではそのノウハウを結集し、IoT(IIoT[※])技術を用いた生産の最適化(生産効率向上、省電力など)への技術開発に取り組んでいます。当社実験では、粉体製品の性能・性質を保ったまま、材料ロスを最低限に抑え、製造装置の消費電力を十数パーセント削減できることが実証されています。

※ IIoT: Industrial Internet of Things(製造業におけるモノのインターネット)



「HOSOKAWA GEN4®」を動画でご紹介しています!



ホソカワミクロン化粧品のご購入はインターネットまたはフリーダイヤルをご利用ください

☎ 0120-191-890

受付時間
9:00-21:00

ホソカワミクロン化粧品

検索